平成 20 年度（第 31 回）日本高血圧学会総会で Young Investigator Award を受賞

第 31 回日本高血圧学会総会が、「生活習慣病の予防戦略　―　血圧管理の重要性―」をメインテーマに 10 月 9 日から 11 日まで札幌で開催されました。信州大学からは、大学院医学系研究科臓器発生制御医学講座の新藤優佳(研究員)の演題発表があり、審査の結果、Young Investigator’s　Award 2008 優秀賞を受賞しました。受賞対象となった発表は「GPCR modulator protein RAMP2 is essential for angiogenesis and vascular integrity」です。本研究は、アドレノメデュリンという生理活性分子の活性調節タンパクである RAMP2 が、血圧調節や、血管保護作用を持っていることを明らかとした研究で、今後研究が進めば、高血圧治療や虚血性心疾患などの治療法開発に大きな期待が寄せられます。
日本高血圧学会は 1978 年に設立され、「高血圧治療ガイドライン」の発行、大規模臨床試験“COLM-Study”や“Homed-BP Study”等の実施など、高血圧や関連疾患の臨床および研究の発展に大きく寄与してきた学会です。平成 19 年度の国民栄養調査の成績では、高血圧は 3,690 万人と推測され、最も高頻度な生活習慣病です。生活習慣病やメタボリックシンドロームの対策の上で、高血圧治療研究は今後さらに重要性が増すと考えられます。
なお、新藤優佳（研究員）の受賞については、１１月３日の信濃毎日新聞の科学欄で紹介されました。